

ながいずみクチコミガイド⑩
世界かんがい施設遺産 本宿用水
 ほんじやくようすい

1603年に豊臣が造った
 愛れた農業用水!!

Enjoy!
 Nagaizumi
 Sanpo

発行 ながいずみ観光交流協会



新井堰・黄瀬川取水口

世界かんがい施設遺産『本宿用水』とは？

本宿用水は、鮎壺の滝の上流に位置する新井堰から黄瀬川の水を取水する、延長約500mの隧道と約2kmの水路からなるかんがい施設です。本宿村付近の黄瀬川は川底が深く、また降水時には暴れ川となり、川水を取水することが難しく、16世紀までは稲作ができない貧困地帯でした。

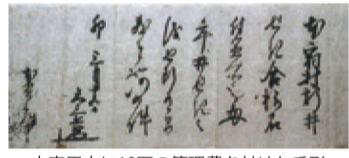
そこで、本宿村の人々は徳川家康から任命をされた、領主・興国寺城主の天野三郎兵衛康景に用水路建設のための隧道掘削の許可を1601年に嘆願し、当時最先端の水利土木技術である「甲州流水利法」を駆使して、1603年に本宿用水が完成しました。



クチコミ
 その1

本宿村の人々の強い願いで 領主天野三郎兵衛康景より 隧道掘削の許可を得た

用水路建設のための隧道掘削については、領主・興国寺城主の天野三郎兵衛康景から本宿村の農民だけで隧道掘削することを条件として許可を得て、完成後には用水の維持管理を徹底するように託されました。



本宿用水に10石の管理費を付けた手形

クチコミ
 その2

武田家に伝わる 甲州流水法の技術を導入

武田信玄の家老だった甘利家から長沢村に移住した甘利弾正の息子(主水)は本宿村に作出地を持っていました。そして、武田家に伝わる鉾山技術や水利技術の指導を受けられるようになりました。

換気抗と先進導坑の役割を担う堅穴抗の設置や行燈を使う測量技術で、67年後に竣工した箱根用水の手本とされました。



©2024SaK 本宿村の農民だけで掘削と木材での落盤防止を同時に進めた

本宿用水の位置図



— 用水 - - - 隧道(地下)

本宿用水関係年表

慶長5年(1600)	徳川家康 関ヶ原の戦いで勝利
慶長7年(1602)	天野康景興国寺城主・本宿村領主となる
慶長8年(1603)	牧堰用水竣工(大久保忠佐沼津城主15ヶ村) 本宿用水竣工、天野康景より手形拝領、徳川幕府誕生
慶長14年(1609)	慶長の検地での本宿村水田面積(734畝)
元和5年(1619)	本宿諏訪神社を新田開発のために現在地に遷宮
寛文2年(1662)	野村代官宛訴訟文に本宿用水設置の経緯が記載
寛文9年(1669)	下原堰竣工(本宿用水に接続)
寛文10年(1670)	箱根用水竣工、本宿村箱根用水組合に加盟
延宝2年(1674)	延宝検地での本宿村水田面積(1,248畝)
元禄17年(1704)	黄瀬川増水により隧道破損し改修
宝永4年(1707)	本宿村箱根用水組合を脱退
宝永5年(1708)	富士山噴火の地震で隧道大破し補修
享保4年(1719)	本宿村と牧堰15ヶ村との水論に江戸奉行所から判決
享保15年(1730)	本宿村干ばつで飢え人続出(領主へ支援を願い出る)
享保19年(1734)	黄瀬川増水で隧道破損し補修
元文4年(1739)	本宿村干ばつで飢え人続出(領主へ救済を願い出る)
宝曆元年(1751)	本宿村と下土狩村による蛇田面をめぐる水論が勃発
安政元年(1854)	大地震で隧道大破、竹原村小僧池(窪)から湧水発生、本宿用水へ接続
明治8年(1875)	本宿村干ばつによる不作米が84俵1斗にのぼった
大正7年(1918)	誘致した高野製紙所特種製紙の前身に小僧池用水の水利権を譲渡
大正12年(1923)	関東大地震で隧道大破し県費により改修
平成2年(1990)	本宿用水隧道改修(第1期)
平成10年(1998)	本宿用水隧道改修(第2期)
令和5年(2023)	本宿用水が世界かんがい施設遺産に登録

